黄金の島再生プロジェクト
―島のレモンを通じて広がる連携の輪―

秦　利宏
一般社団法人とびしま柑橘倶楽部
代表理事

要　旨

これはとびしま柑橘倶楽部が中心となり、農家、企業、学生、団体、地域の方々と連携し課題を解決しながら、島のレモンを通じて広がる活動を記したレポートです。

舞台の場となる瀬戸内海に浮かぶ広島県呉市「大崎下島」は、かつて日本一の収穫量を誇るレモンなど柑橘類の生産地「黄金の島」と呼ばれていました。しかし、生産者の高齢化や後継者不足などの問題で現在の生産量は全盛期の3分の1程度まで減少しています。

このままでは100年以上島々を支えてきた、重要な伝統産業がなくなる・・・！島の危機を感じた私たちは消えゆく伝統の灯火を絶やさぬよう、活動をスタートさせました。

01 きっかけは、一籠のレモン

ある日、島の農家さんが呉市川尻町の秦利宏が経営するアラビアンナイト（洋菓子店）に、1籠の販売不可能と言われた柑橘を「これ、何かに使えんかね？」と無償で置いて帰ったことから始まりました。2000年安芸灘大橋が架橋されたことにより農家さんが自らレモンなど柑橘類を売りに歩くなか、売れない商品で何か開発をしてほしいという切実な要望でした。そんな農家さんが1軒2軒と増えていきそれなら皆で組織化することで6次産業化を目指そうと月に1回程度座談会を行うようになり、組織化に向けて動き出しました。

02 「愛とレモンで島おこし」 ～とびしま柑橘倶楽部の発足～

アラビアンナイトに集まる農業従事者と地域活性化を目指す人々の集まりから「愛とレモンで島おこし」を合言葉に「とびしま柑橘倶楽部」を結成しました。組織であり、高齢、孤立、衰退していく傾向にある田舎の地域を会員と共に盛り上げていく、利用者全員が共にメリットを享受できるビジネスモデルを目指し、まずは農家さんからの課題の聞き取りを始めました。同時に事業会員を募集し農業従事者と地域が抱える問題や課題を共有。アイディアを出し合い、商品開発、ブランド化、広報、販売について意見交換を行いました。

農家ミーティングの様子

農商工異業種連携チーム

「島の未来つくろうや！」をテーマに掲げ、レモン発祥の地、広島県呉市豊町にて講師を招き、農商工連携フォーラムを開催。県内外の取り組みについて講演を行いのべ３００人余りが参加し、企業のマッチングを図りました。

農商工連携フォーラム

マッチング交流会

03 とびしまレモンの6次産業化

とびしま海道（＊1）の柑橘の中でも特にレモンに着目し、６次産業化をスタートさせました。

（（＊1）呉市の南東に位置する下蒲刈島から愛媛県今治市の岡村島を7つの橋で結ぶ「安芸灘とびしま海道」）

2015年広島県呉市川尻町に工場を併設したカフェを開業。島で収穫された売れない柑橘を使ってジャムやシロップなどの加工品を製造、カフェでは加工品を使ったメニュー提供や加工品の直販を行うようになりました。やがてインターネット販売や展示会への出店、パブリシティ広告を使った販売活動により、とびしまレモン加工品が広く知られるようになり、2017年レモンのメレンゲ菓子「れもんげ」が､おもてなしセレクション金賞（OMOTENASHI NIPPON実行委員会　主催）を受賞するまでになりました。

ファクトリー&カフェ

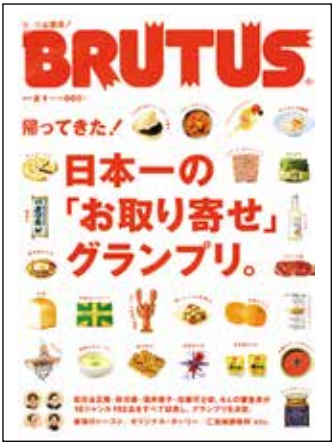
レモン加工品

大阪での展示会の様子

パブリシティ広告

受賞歴

2017年おもてなしセレクション金賞受賞 れもんげシリーズ
OMOTENASHI NIPPON実行委員会　主催



雑誌　BRUTUSにて　【帰ってきた！日本一の「お取り寄せ」グランプリ】
「れもんげ」が果樹園デザート部門グランプリ受賞

04 「レモンが足りない!?」　～供給不足によって知った島の農業の現実～

レモン加工品の売上が好調ななか、レモンの供給不足という新たな課題に直面しました。

島の農業について聞き取りをしていくうちに、農家さんの平均年齢７５歳、後継者不足、加えて島の柑橘栽培方法は５０年前から変わっていないことが分かりました。なぜ島の農業に若い力が入って来ないのか。そこには、島特有の斜面での栽培や収穫した柑橘がいっぱいの籠を背負い斜面を上り下りする辛く苦しい重労働、そして柑橘栽培で収入を得るまでに最低３年かかるという厳しい現実がありました。レモン生産量を上げるため、農家数の増加と生産効率アップを目指すべく、５０年前と変わらない現在の栽培方法を見直し、新規就農希望者が柑橘栽培で安定的に収入を得られる仕組みを構築するため、農業に着手することを決意しました。

農家戸数・経営耕地面積についての資料

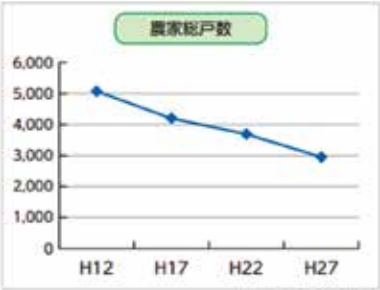
(2) 農業の課題

ア 農業生産基盤の脆弱化

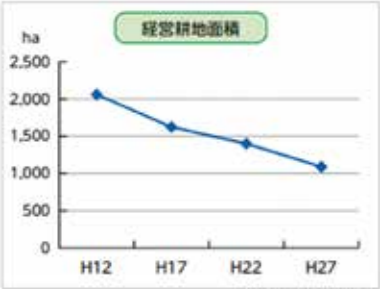
平成 27 年の農家総戸数は約 3,000 戸で，平成 17 年の約 4,200 戸に比べて，約 30％も減少しています。

また，農業就業人口については，65 歳以上の人が占める割合が平成 27 年は 78％で，平成 17 年の 67％に比べて 11％増加するなど農業者の高齢化が進んでいます。さらに，平成 27 年の農地経営耕地面積は約 1,000ha で，平成 17 年の 1,600ha に比べて約 1／2 に減少しています。

このような統計値に加え，農産物の価格低迷や生産資材費の高騰等，農業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。今後も農業者や経営耕地面積等が減少していくと，これまでの農業産地を維持できなくなることから，生産量の減少による市場競争力の低下や耕作放棄地の増加，農業所得の低下など，地域経済や生活環境に悪影響を及ぼし，農業生産基盤の脆弱化につながるおそれがあります。



（出所：農林業センサス）



（出所：農林業センサス）

（出所：呉市ホームページ「呉市農水産業振興ビジョン」平成28年12月）
URL：https://www.city.kure.lg.jp/uploaded/attachment/24287.pdf

05 若い力で耕作放棄地再生へ ～クラウドファンディングの実施～

まずは、島の耕作放棄地を再利用することから着手。広島県内の大学生で構成された学生団体STYLEが名乗りを上げ、共同でレモン農園を開園しました。農園開園に必要な費用は、クラウドファンディングを実施し、資金を集め目標額である３００万円を達成。この取り組みをSNSなどで情報発信し、賛同した県内外からの学生・民間ボランティアが農園作業に島を訪れ交流人口の増加にもつながりました。

クラウドファンディング

ボランティア・学生団体STYLEと耕作放棄地を再生する様子

学生団体STYLEとの共同農園　「STYLE農園」

学生団体STYLEとの連携をきっかけに、広島県内外のイベントへ共同出店し、とびしまレモンを広く知ってもらう活動を行うようになりました。

東京丸の内で開催「農林業学園」に参加の様子

広島ライフスタイル博出店

ひろしま盆ダンス出店

STYLEの学生たちと定期的に共同農園でレモン畑の手入れを行なっています。多様な学部の学生が集まっていることから、その専門知識を生かし、本来なら捨てられる摘果した未熟レモンやレモンの葉などを使ったコラボ商品開発プロジェクトも計画中。

共同農園でSTYLEの学生とレモンを摘果する様子

06 農業のIT化・機械化で島の未来をつくる ～島しょ部傾斜地農業に向けたAI/IoT実証事業～

経験と勘に頼った５０年前の栽培方法の見直すため、レモン加工品を販売する中で展示会や勉強会などで知り合った異業種の企業と連携し、IT・IoTを使った農業ノウハウ構築へ動き出しました。レモンの生産効率アップ、レモン農家数増加を目指すには、既存農家の作業負担軽減と新規就農希望者が柑橘栽培で安定的に収入を得られる仕組みを構築することが急務と考え、ひろしまサンドボックス事業に参加。「島しょ部傾斜地農業に向けたAI/IoT実証事業」をテーマに掲げ、一人当たりの生産面積の拡大と生産者の増加による広島県のレモン生産量の最大化にチャレンジしています。

ひろしまサンドボックス（＊2）コンソーシアムメンバーの企業と連携し、レモンの苗木１本ごとにQRを振り当て、生育状態・収穫量の管理を行い、農園に風土・土壌センサーを設置しタブレットで数値を管理する仕組みを構築中です。

(*2) AI/IoT、ビッグデータ等の最新のテクノロジーを活用することにより、広島県内の企業が新たな付加価値の創出や生産効率化に取り組めるよう、技術やノウハウを保有する県内外の企業や人材を呼び込み、様々な産業・地域課題の解決をテーマとして共創で試行錯誤できるオープンな実証実験の場。

レモン苗木に振り当てたQRコード

風土計

07 島のレモンを通じて広がる連携の輪　～呉×立川レモンプロジェクト始動～

2018年７月、西日本豪雨災害により、国産レモン発祥の地であるとびしま海道のレモン農園も土砂災害・浸水被害に遭いました。被災した呉市の経済活性化の一助にもなればと、立川市内の商店街および商店会の連合組織である立川市商店街連合会（東京都）と連携し『呉×立川レモンプロジェクト』が動き出すことになりました。

バラエティ豊かな店舗が集積する立川市。安全安心な美味しい国産レモンを立川市の名産品にしようと検討する事業の一環で、市商連役員で構成される「たちかわ商店街研究会」との連携が始まりました。

とびしま柑橘倶楽部と立川市内の農家の連携で、立川で呉の『瀬戸内 広島レモン』の栽培を試行する植樹式を実施。この取り組みは、レモンにとって寒冷地である立川で、とびしまレモンの耐寒性についてIoTなどを活用した実証実験の一環（ひろしまサンドボックス事業）でもあり、立川の農園の全面的な協力により、実現しました。

とびしま海道のベテランレモン農家と連携し、定期的に立川市の農園を訪れ継続的に栽培のアドバイスを行なっています。

植樹式の様子

広島レモン 立川の名品に

西日本豪雨に見舞われた島から苗木移植

耐寒栽培実験通じ 被災農家応援

新聞記事

08 黄金の島再生プロジェクト ～復活がゴールではなく新しい物語の始まり～

「黄金の島再生プロジェクト」は、島の人々が一つになり島を盛り上げていくストーリーの序章。耕作放棄地を再生することでレモンの生産量も上がり、より多くのレモン加工品を世に送り出すことができます。 そして、自然に囲まれ美しく輝く島には、観光を目的とした人々が訪れ、その魅力に魅了された人々が島に移住し、島で起業することも考えられます。

一次産業が二次産業、三次産業の川上に存在すると考えれば、日本一のレモン農家が枯渇すれば川下の産業も衰退すると考えられるのです。だからこそ、この島のみかんやレモンは農家だけでなく地域の加工業者、小売店、観光業者とざまざまな方を豊かにする宝です。

この宝を守るため少しでも多くの耕作放棄地に黄金の実を育てたいと、私たちは強く思っています。

レモン栽培発祥の地、大崎下島の農園が拠点となりSNSなど様々な媒体を使ってこの活動を発信していくことで、レモン畑がマッチングの場所となり、企業、団体、学生、地域、農家の連携が生まれ、現在行われている農業の機械化・IT化、様々な課題を解決するためのコンソーシアムに繋がっています。

その土地に眠る農産品・地域資源を利用して商品開発から農業までを行い、人と人とを繋げ連携を生み地域の課題を解決する。とびしまレモンを通じて、島（とびしまの島）、ひろしまの島、日本を表す島国の島を商品と人で繋げ、日本中に私たちのレモン商品が届けられる、私たちが持っているノウハウが地方地域で活用され、世界とも繋がれる未来を作っていきます。

活動の成果

・６次産業化による農家からのレモン買い取り量の増加。
・農園視察及び耕作放棄地再生への参加人数・交流人口の増加。
・黄金の島再生プロジェクトへの賛同会員及び参加農家軒数の増加。

活動の主な変遷

初年度	農家からの課題聞き取り
H26年度	６次産業化開始
H27年度	広島県内及び全国で展示会参加
H28年度	レモン祭りなど自社イベント開催、耕作放棄地再生事業
H29年度	黄金の島再生プロジェクト クラウドファンディング実施・目標達成
H30年度	自社農園開園、農業のIT化、 ひろしまサンドボックス事業参加 ～島しょ部傾斜地農業に向けたAI/IOT実証事業～